

国立民族学博物館研究報告 vol.15-3; 表紙, 目次ほか

| | |
|-----|---|
| 雑誌名 | 国立民族学博物館研究報告 |
| 巻 | 15 |
| 号 | 3 |
| 発行年 | 1991-03-18 |
| URL | http://hdl.handle.net/10502/00009207 |

1990—15_卷3_号

国立民族学博物館 研究報告



リオ族における農耕儀礼の記述と解釈———杉島敬志

サーミ民族運動における言語復権の試み———庄司博史



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

15 卷 3 号

1990 年

目 次

| | | |
|-------------------------|-----------|-----|
| リオ族における農耕儀礼の記述と解釈…………… | 杉島敬志…………… | 573 |
| サーミ民族運動における言語復権の試み…………… | 庄司博史…………… | 847 |
| 彙 報…………… | | 911 |
| 国立民族学博物館研究報告寄稿要項…………… | | 913 |
| 国立民族学博物館研究報告執筆要領…………… | | 914 |

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 15 No. 3

1990

- SUGISHIMA, Takashi Description and Interpretation of the Lionese Agricultural Rituals 573
- SHOJI, Hiroshi The Role of the Language Rehabilitation in the Sami Ethnopolitical Movement 847

彙報

(平成2年7月～
平成2年9月)

(教育職)

9月1日 第三研究部助手 森 明子
(筑波大学助手)

人事異動

(教育職) (客員部門)
7月1日 第三研究部教授 赤坂 賢
(富山大学教授)

海外における研究・調査・収集活動

| 氏名 | 官職 | 出発 | 帰国 | 行先 |
|-------|------------|---------|---------|----------------------|
| 宮本 勝 | 助教授(第二研究部) | 2. 7. 1 | 2.10.10 | マレーシア, インドネシア |
| 片倉 素子 | 教授(第二研究部) | 2. 7. 2 | 2. 8.20 | エジプト, チュニジア, 中国 |
| 友枝 啓泰 | 教授(第四研究部) | 2. 7. 2 | 2. 9. 3 | ペルー |
| 藤井 龍彦 | 助教授(第四研究部) | 2. 7. 2 | 2.11.29 | ペルー |
| 杉田 繁治 | 教授(第五研究部) | 2. 7. 8 | 2. 7.13 | インド |
| 佐々木史郎 | 助手(第一研究部) | 2. 7.16 | 2. 8.21 | ソ連 |
| 長野 泰彦 | 助教授(第一研究部) | 2. 7.18 | 2. 7.29 | 中国 |
| 杉村 棟 | 教授(第二研究部) | 2. 7.19 | 2. 8.23 | 中国 |
| 林 行夫 | 助手(第四研究部) | 2. 7.19 | 2. 8.29 | タイ, ミャンマー |
| 大塚 和義 | 助教授(第一研究部) | 2. 7.26 | 2. 8.12 | ソ連 |
| 田邊 繁治 | 助教授(第二研究部) | 2. 7.26 | 2. 8.31 | タイ |
| 秋道 智彌 | 助教授(第一研究部) | 2. 7.26 | 2. 9.14 | パプアニューギニア, ソロモン諸島 |
| 石毛 直道 | 教授(第一研究部) | 2. 7.31 | 2. 8. 9 | 連合王国 |
| 田村 克己 | 助教授(第二研究部) | 2. 8. 1 | 2. 8.29 | ミャンマー, タイ |
| 吉田 集而 | 助教授(第二研究部) | 2. 8. 3 | 2.11.25 | インドネシア, パプアニューギニア |
| 福井 勝義 | 助教授(第三研究部) | 2. 8. 4 | 2. 8.12 | タイ |
| 江口 一久 | 助教授(第三研究部) | 2. 8. 8 | 2. 8.29 | カナダ |
| 長野 泰彦 | 助教授(第一研究部) | 2. 8. 9 | 2. 8.22 | パキスタン, インド |
| 庄司 博史 | 助手(第三研究部) | 2. 8. 2 | 2. 9.16 | フィンランド, ノルウェー, ハンガリー |
| 藤井 知昭 | 教授(第五研究部) | 2. 8. 3 | 2. 8.21 | インド, ネパール, タイ |
| 松澤 員子 | 教授(第二研究部) | 2. 8.20 | 2. 9. 9 | 台湾 |
| 佐々木高明 | 教授(第二研究部) | 2. 8.21 | 2. 8.25 | タイ |
| 永ノ尾信悟 | 助教授(第三研究部) | 2. 8.25 | 2. 9. 4 | オーストリア |
| 石毛 直道 | 教授(第一研究部) | 2. 8.26 | 2. 9.11 | ブータン, タイ, マレーシア |
| 栗田 靖之 | 助教授(第二研究部) | 2. 8.26 | 2. 9.11 | ブータン, タイ, マレーシア |
| 吉田 憲司 | 助手(第二研究部) | 2. 9. 7 | 3. 6. 2 | 連合王国, ドイツ |
| 佐藤 浩司 | 助手(第四研究部) | 2. 9.16 | 2.10.16 | インドネシア |
| 山本 紀夫 | 助教授(第四研究部) | 2. 9.26 | 2.10. 3 | アメリカ合衆国 |

来館者抄

7月2日 烏 恩 特(中国, 内蒙古社会科学院外事秘書)

7月3日 Robert M. ADAMS(アメリカ合衆国, スミソニアン協会長官) 夫妻

Ahmad FODIL-BEY(アルジェリア, 国立博覧会事務局総裁)
Mohamed LAIB(アルジェリア, 国営植物公園総裁)
Youcef HODJA(アルジェリア, 文化庁文化宮殿局長)

- Ahmed GASHI (アルジェリア, 国立博覧会事務局対外関係課長)
- Mohamed Bachir KECHROUD (アルジェリア, アルジェリア・ツーリング・クラブ会長)
- 7月7日 アラン・ポール (ソロモン諸島, 天然資源大臣) 夫妻
ヘンリー・イサ (ソロモン諸島, 環境保全局長)
ウイルソン・マエラワ (ソロモン諸島, 環境局長)
- 7月16日 石坂財団奨学生見学会一行 総勢24名
大阪府友好都市フランス・ヴァルドワーズ県一行 総勢30名
- 7月20日 屠培林 (中国, 中華全国新聞記者協会国際連絡部主任高級記者)
- 7月23日 Ovini Bokini RATU (フィジー, 森林大臣) 夫妻
Charls WALKER (フィジー在日大使)
- 7月28日 吹田市姉妹都市 オーストラリア・バンクスタウン市訪問団一行 総勢125名
- 8月3日 ベナシェノン (フランス, ユネスコ社会科学担当)
- 8月11日 Emmanuel RODRIGUEZ (ベリーズ, 観光次官)
Vinnel Branch PLOOG (ベリーズ, 国立考古学博物館総裁)
- 8月12日 オーストラリア少年少女合唱団一行 総勢23名
- 8月14日 Sulaiman ALIAS (マレーシア, Shapadu Holding 社取締役・コラムニスト)
- 8月23日 Jorge ANHALZER (エクアドル, 農牧省技術担当次官)
Krustan Nikolov KARAKASHEV (ブルガリア, 国立都市地域計画センター所属造園都市計画専門家)
S. A. O. ADEYEMI (ナイジェリア, 国立園芸研究所長)
- 8月27日 山内 篤 (ブラジル, 移民資料館委員会委員長, ブラジル日本文化協会第一副会長)
- 9月3日 孫克幸 (大韓民国, 韓国文化芸術振興院企画部長)
- 沈和民 (大韓民国, 同院総務部)
- 朴鍾植 (大韓民国, 同院研修館)
- 韓哲 (大韓民国, 同院文芸会館)
- 関峻弘 (大韓民国, 同院文学美術部)
- 都益洙 (大韓民国, 同院監査室)
- 9月17日 王正芳 (中国, 雲南省民族博物館長)
代世館 (中国, 雲南省民族委員会)
尹紹亭 (中国, 雲南省民族博物館員)
張寧 (中国, 同館員)
- 9月18日 Sumitr PITIPHANT (タイ, タマサート大学社会人類学部長)
Anwaruliah CHOWDHURY (バングラディシュ, ダッカ大学社会学部長)
ナイジェリア報道関係者 Wole ELEGBEDE (チャンピオン紙外交問題上級記者)
Nnamdi OBASI (コンコード紙社説担当編集委員)
- 9月21日 メリック・ポツナンスキー (アメリカ合衆国, カリフォルニア大学ロサンゼルス校アフリカ研究センター所長)
Afkhame-Aghda ALI (イラン, テヘラン大学外国語学部長)
- 9月30日 中国文芸界連合会代表団一行 団長 馬烽 (中国文学芸術界連合会執行副首席)
梁光弟 (同会全国委員会委員)
陳清泉 (上海市文学芸術界連合会党組書記)
旋万春 (中国音楽家協会常務理事)
潘虹 (中国文学芸術界連合会全国委員会委員)
李世南 (中国美術家協会員)
趙平 (中国文学芸術界連合会国際部幹部)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえで、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。歌文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 15卷3号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

石 森 秀 三

江 口 一 久

片 倉 素 子

崎 山 理 生

周 達 生

須 藤 健 一

垂 水 稔 彦

長 野 泰 夫

林 行 夫

福 井 勝 義

松 原 正 毅

宮 本 勝

平成3年3月18日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 15卷3号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.15 no.3
1990

SUGISHIMA, Takashi

**Description and Interpretation of the Lionese
Agricultural Rituals**

SHOJI, Hiroshi

**The Role of the Language Rehabilitation in the
Sami Ethnopolitical Movement**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita Osaka, Japan
phone 06-876 2151

ISSN 0385-180X